

# 『かがり火』支局長会議 in 菊池 (白金の森) のご報告

高木正三 (ほんわかドリーム編集局長支局長)

日時：平成30年7月27日(金) 13:30~16:30

場所：熊本県菊池市 農のオーベルジュ「白金の森」

7月27日、『かがり火』の表紙裏の広告でおなじみの熊本県菊池市の「白金の森」で『かがり火』支局長会議が開催されました。不肖高木正三が支局長会議の議長を務めさせていただきましたので、簡単にご報告申し上げます。

参加したのは支局長24人、支局長ではないけれど熱心な読者の方、支局長の友人で同行なさった方など合わせて42人となりました。左記の参加者名簿をご参照ください。

「白金の森」の松岡義博社長のあいさつの後、お一人ずつ自己紹介をしていただく時間がありませんでしたので、発行人の菅原さんから簡潔で的確な人物紹介がありました。

参加者のプロフィールを聞くにつけ、いまさらながらに支局長の持つ技能やまちづくりの豊富な体験は価値あるものだと思います。松岡社長がおっしゃるように間違いなく『かがり火』の貴重な財産です。発行人の菅原さんの独占としてしまうことは確かにもったいない話です。

その後、『かがり火』のネットワークをより強いものにするための会議が始まり、さまざまな提案をいただきました。下記にメモ的にまとめましたのでご覧ください。

会議の後の名刺交換タイムでは、ドラマチックな出会いもありました。馬路村の躍進は1988年に東京の西武百貨店で開催された日本の101村展で最優秀賞を受賞したことがきっかけとなったことは有名な話ですが、その時、イベントの裏方として走り回っていたのが、西武百貨店に入社したばかりの水俣市の沢畑亨さん(日本一(自称)の棚田支局長)だったということです。当時はお互いに知るよしもなかったのですが、30年ぶりの不思議な再会でした。

ある支局長の、仮に『かがり火』が消滅してしまうことがあってもネットワークの存続は図ってほしいという発言が印象的でした。

## 支局長からの提言。

### I 『かがり火』誌面での工夫

- ・「支局長便り」「支局長コーナー」などの投稿欄を設置し、軽くて簡単でやわらかい原稿を掲載する。
- ・支局長のワンポイント活動報告を掲載する。かつてあったが最近見当たらないのが残念。
- ・支局長同士の訪問記を掲載する。

### II 『支局長会議』の開催

- ・全国を8ブロックに分けて、支局長会議を定期的開催する。この会議には読者は誰でも参加できることとする。
- ・テーマを設けて、合宿型支局長会議を開催する。

### III 『支局長のつながりの強化』

- ・お互いに遠慮せずに、電話、メールで連絡し合う。
- ・2~3年に1回直接会う機会をつくる(支局長同士の意見交換を積極的に行う)。
- ・支局長への突撃訪問の実行。

### IV 『支局長のつながりの具体策』

- ・支局長が主催するイベントは、近隣の支局長が手伝い、協力する。
- ・支局長が講演に呼ばれたら、「支局長枠」で近隣の支局長を招待するようにする。
- ・『かがり火』支局長と読者を対象に、各地の名人を訪ねる旅を実施する。

### V 『かがり火』読者の拡大

- ・新しい読者を獲得するために身近にいる知人・友人を勧誘する。

### VI 『IT関連の活用』

- ・メール링グリスト、SNS、LINEを活用して、情報の素早い伝達を心掛ける。
- ・ホームページに「支局長のページ」を作り、①知りたい情報、②訪問情報等を掲載する。
- ・『かがり火』をネット配信する。
- ・支局長がどのような地域づくりを行っているか、ネット上で『かがり火地域づくりカレンダー』を作成して公開する。

### VII 『後継者の育成』または『責任者の明確化』

- ・菅原発行人の後継者発掘。
- ・ブロックごとの世話役を決める。

### VIII 『かがり火』のPR

- ・『かがり火』の海外進出。
- ・『かがり火』で紹介した人物を海外に紹介する。
- ・『かがり火の日』を設定。
- ・2020東京オリンピックに向けて「かがり火聖火リレー」を企画する。

### IX 『その他』

- ・『かがり火』支局長のイメージ像をイラスト作成(『かがり火』のゆるキャラのようなもの)。
- ・『かがり火』支局長証明カードの発行。
- ・『かがり火』地域づくり川柳の募集。

以上、意味不明だったり、あいまいだったり、荒唐無稽な提言もありましたが、『かがり火』ネットワークの重要性は全員が認識しているようでした。とりあえず一つでも可能なものを九州地区から始めたいと思っております。



支局長会議の冒頭、あいさつする松岡義博社長。右は議長を務めた高木正三支局長。



初対面でも、昔からの知り合いのような親しさを感じた支局長会議。より強い結び付きを求めて積極的な意見が飛び交った。